第10期岡山県生涯学習審議会 第5回会議　議事概要

日時　平成２９年３月２１日（火）１３：００～１６：００
場所　ピュアリティまきび　２階　千鳥

１　開　会

２　議　事

（１）報告事項
　ア　中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業について
　イ　社会教育実践専門講座及び公民館長研修会について
（２）協議事項
　「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」について
　ア　第４回会議の概要と今後の協議の進め方について
　イ　事例紹介
　（ア）保健福祉部における家庭への支援の状況について
　　ａ　平成２９年度保健福祉部重点事業
　　ｂ　津山市子育て世代包括支援センター
　（イ）ＮＰＯや県内市町村の家庭教育支援の状況について
　　ａ　ＮＰＯ法人岡山市子どもセンター
　　ｂ　真庭市家庭教育支援チーム

（３）その他

３　閉　会

＜議事概要＞

○２議事
（１）報告事項
　ア　中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業について

事務局　資料６～１３ページを説明。

会長　平成２８年８月の県生涯学習審議会の提言を受けて、施策に反映できたものの説明であった。一つ目は、中高生が地域住民や企業・ＮＰＯ等の多様な主体と協働・連携し、地域課題に取り組む事業を、知事部局の県民生活部の新規重点事業「中山間地域等活力創出特別事業」の中に位置づけられたというものだった。二つ目は、生涯学習センターが実施する研修について、家庭教育支援の

キーパーソンとなるコーディネーターの育成や、公民館長の資質や意識改革をねらいとした研修を実施するとのことであった。
　これについて、何か御意見あれば御発言いただきたい。

委員　　中高生の活躍について情報提供したい。平成２６年度に県の経営支援課の委託を受け、まちづくりに取り組んでいる事例やアイデアを応募してもらい、優秀な取組やアイデアを表彰する「岡山まちの夢　学生アイデアコンテスト」をタブララサが実施したので紹介したい。その事業は２６年度に終了したが、報告書に高校生の活動事例がまとめられているので御覧いただき、その後の彼らの活動も見てもらい、今後の取組に役立てていただきたい。

事務局　　貴重な情報を提供していただたので参考としていきたい。

委員　　委員の紹介されたことについて、同じ県の事業なのに、なぜ生涯学習課は知らないのか。

委員　　高校生等を対象としたものであるが、県の中でも教育委員会ではない担当課が主体となって実施しているからではないかと思う。

事務局　　まさに、教育委員会と首長部局がしっかりと連携できていなかった一例である。今後はしっかりと連携し、そういった情報を入手しながら取り組んでいきたい。

会長　　他に御意見がないようなので、次の協議事項に移ります。

○２議事
（２）協議事項「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」
　ア　第４回会議の概要と今後の協議の進め方について

会長　　まず、前回の議論のまとめと今後の審議の進め方について事務局から説明願います。

事務局　　資料１４、１５ページにより説明

会長　　ただいまの説明について、御質問等があれば御発言願いたい。
会長　　御質問等がないので、事務局からの説明のとおり、審議会会議を１回増やし平成３０年度の予算要求に間に合うよう、この７月には本審議会の提

言としてまとめ、教育委員会に提言する方向で、今後審議を進めたい。

（２）協議事項「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」

イ　事例紹介

会長　先ほどの説明のとおり、前回は、事務局から、子どもを取り巻く社会環境の状況、様々な困難を有する子どもの状況、家庭や地域における教育力の状況の３つの視点から、統計に基づく現状の紹介、また、これらの状況に対する行政による家庭教育支援の取組について説明していただいた。さらに、浅口市教委からは、「家庭教育支援チーム」の実際の取組を具体的に紹介いただいた。

それでは、今回は、主に教育委員会以外での家庭への支援について、とりわけ子育て支援に関する事例などを紹介していただく。なお、質疑応答は後でまとめて時間を取りたい。まず、県の取組の紹介を県保健福祉部子ども未来課の説明者の方、お願いします。

イ　事例紹介

（ア）保健福祉部における家庭への支援の状況について

ａ　平成２９年度保健福祉部重点事業

子ども未来課　別冊「平成２９年度岡山県保健福祉部重点事業等に関する資料」（子ども未来課関係分）により説明

会長　ありがとうございました。続きまして、津山市こども保健部健康増進課の説明者の方、お願いします。

イ　事例紹介

（ア）保健福祉部における家庭への支援の状況について

ｂ　津山市子育て世代包括支援センター

津山市こども保健部健康増進課　別冊「岡山県津山市子育て世代包括支援センター」資料により説明

会長　ありがとうございました。続きまして、ＮＰＯ法人岡山市子どもセンターの説明者の方、お願いします。

イ　事例紹介
（イ）ＮＰＯや県内市町村の家庭教育支援の状況について
　ａ　ＮＰＯ法人岡山市子どもセンター

ＮＰＯ法人岡山市子どもセンター	配付資料及びプロジェクターによるスライド投影で説明
会長	ありがとうございました。最後に、真庭市独自の「親育ち応援プログラム」や真庭市家庭教育支援チームについて、真庭市教育委員会生涯学習課の説明者の方、お願いします。

イ　事例紹介
（イ）ＮＰＯや県内市町村の家庭教育支援の状況について
　ｂ　真庭市家庭教育支援チーム

真庭市教育委員会生涯学習課	別冊「真庭市家庭教育支援事業」資料により説明
会長	ありがとうございました。保健福祉部や教育委員会以外においても、家庭を支えるための行政による取組や、ＮＰＯ法人による子どもの育ちための取組が行われていることを改めて知ることができたかと思う。 開始から長時間経過したので、ここで１５分間休憩を取りたい思います。 質疑につきましては休憩後に行います。 よろしくお願いします。
休憩	
会長	それでは、再開します。先ほどは４名の方からの説明への御質問がございましたら御発言願いたい。
委員	岡山県の子ども未来課の方に質問したい。潜在保育士の施策について、いろいろと取り組まれていると思うが、保育士の保育所への就労率が約６割（別冊資料１ページ）と聞いたが、私の認識と約１割以上異なるのでもう一度確認したい。

子ども未来課

平成２７年度において、県内２１箇所の保育士養成校を卒業した方が１，２３４名、その内保育所資格を取得された方が１，０８５名、その内その資格を活用されている方が８６６名、さらに２１７名程度が保育所以外で働いておられる。よって、６５０名程度の保育士が保育所で働いており、１，０８５分の６５０の約６割というふうに把握している。平成２５、２６年度もほぼ似たような割合である。

委員

今年に入って、さらに保育士不足と叫ばれているので、もうちょっと数字がよいかと思ったのだが。

様々な保育士の離職対策をされていると思うが、離職した人や潜在保育士を戻すことについては、なかなか難しいのではないかと思う。私も潜在保育士向けの研修会を実施しているが、参加者集まらないとう課題を抱えている。潜在保育士就職準備金貸付制度については、様々な手立ての中である人には有効なものの一つかもしれないが、もう少し広く一般的に効果を上げる手立てとしては、処遇改善をしたらどうかと提案したい。復帰するに当たっては、いきなり正職ではなく、臨時やパートで働きたいと考えている方が多いと思う。そういった方々には支度金よりも、日給や時給などの処遇をよくすることが有効かと考える。折角の予算を使うのであれば、実態にあった使い方が他にあるのではないかと思う。

子ども未来課

離職をされる方は年間７００人に近い。離職には様々な理由があって、例えば、最初から５年間働いた後に辞めるという方や、経営的観点でどんどん若い保育士に入れ替えていくといったように様々である。

御指摘のとおり処遇をよくすることは大切であると考えている。特に正規職員についてもだ。保育士の給料は他の職業と比べ約１０万円低いといった報道もあるようだが、これは、保育士の年齢層が若いからということもあるかもしれない。公立の保育士は、給料体系ははっきりしているが、私立は、保育園によって大きく差があり、約１．５倍の差があるところもあるのが実態だ。

保育士の処遇改善は、大きな課題であり、国・県においてもそのような認識で取り組んでいるところである。現在は、国が公定価格のような水準を示し、保育士の処遇が改善するしくみづくりを考えているところであり、県としてはそれを見守っているところである。国が、公定価格のような水準を示せば、県による監査指導で、その水準程度の給与体系を持つよう指導しやすくなり、平準化を期待できるようになると考える。

委員

現在も、給料の不足分が補われるよう国から補助されているが、私立保育所については、保育士の手元にまで渡っていないようである。保育士の手元に１００％届くしくみづくりが必要ではないか。県や市は、そういったところを強

	く指導するだけはでなく、もう少し踏み込み、守っていないところは、罰則規定を適用するなどもう少し踏み込めばよいのではないか。 　県の方で、保育士の手元に１００％渡るような方策を考えていただきたい。
子ども未来課	御指摘の給与加算分については、申請すれば支給されることになっている。給料のベースアップについては、経営者の運営努力によるものなので、ベースアップするよう指導はできるが、法令が整備されないかぎり踏み込むことは難しい。 　いずれにせよ、保育士の処遇が改善されるよう、国の動向を見ながら県としても考えていきたい。
会長	潜在保育士や保育士の処遇に関する質疑であったが、他に御意見等があれば御発言願いたい。
委員	全体的な感想であるが、保育園待機児童や児童クラブでの待機児童の問題が起きていて、行政が頑張ってもなかなか追いつかない現状だと思う。 　岡山市子どもセンターの説明でもあったように、少子化で一人っ子が多いなど、子ども同士で遊ぶ体験等が少ないという現状を踏まえると、学童保育や保育所に入ることは、幼い頃から子ども同士のつきあいができるので、子どもの育ちという視点で考えてみると、とても良いことである。学童保育や保育所の設置は、保育に欠ける世帯を補助するというものではなく、積極的に必要な施策なのだという発想の転換が必要ではないか。 　日本の行政は縦割りで、厚生労働省は保健福祉、文部科学省は教育といったように分かれていて、そこを互いに調整するのはなかなか難しいのだと思う。現在では、学童保育が同じ学校に何カ所も設置しないと対応できないという状況ではあるが、子どもの育ちにとって、子ども同士触れあう施設があることは良いことであるし、労働力の創出という面では、女性が働くことができる場の創出にもつながることにもなる。各分野が個別ではなく全体で考えて貴重な予算を分配すればよいと思う。
委員	津山市子育て世代包括支援センターについてお尋ねする。２枚目の資料で、平成２８年４月にセンターが設置されたとのことだが、設置前はどうだったのか教えて欲しい。
津山市こども保健部健康増進課	ピンクの箇所（「出産後１か月以内の電話相談」、「ハイリスク妊婦電話相談」、「妊婦養育支援訪問」、「乳幼児・未熟児訪問」「産婦・乳幼児養育支援訪問」）がこの４月に設置されたもので、残りは設置前も実施していた。

委員	ピンクの箇所以外は、他の市町村も行われているのか。
津山市こども保健部健康増進課	「妊婦歯科検診」、「はっぴー子育て教室」は津山市独自で実施しており、「妊婦学級」は大きい市では実施しているところもあるが、それ以外はどこの市町村でも実施されているとは限らない。
委員	妊娠前、妊娠期、出生、乳児期、幼児期のすべての母子を対象としていることはわかったが、では、就学へはどうつながっているのか。真庭市と津山市の状況を教えていただきたい。
真庭市教育委員会生涯学習課	真庭市では、妊娠前、妊娠期、出生、乳児期、幼児期の母子に対しては、主に子育て支援課が、親育ちワークの推進をしており、就園・就学後は、園・学校関係の保護者を対象として、「親育ち応援学習プログラム」の活用を家庭教育支援チームが推進している。
津山市こども保健部健康増進課	津山市は部局が分かれており、家庭教育支援を行っている教育委員会との連携ができていないのが現状である。先日、家庭教育に関する会議に保健師が呼ばれて出席する機会があったので、今後は連携していくことになると考える。 また、今年度から子育て支援に関するスタッフの会議を開催しているので、教育委員会との連携も考えていきたい。
委員	これまでも、子育て支援や家庭教育支援が縦割でそれぞれ実施されてきたことがわかったが、それらのサービスが、つながりをもった一つのパッケージとして住民にきちんと伝えられることが大切だ。
会長	今までは、それぞれの担当部局が主体的に行ってきたけれども、連携が十分でなかった反省もあり、最近は連携を意識した動きがあるのではないか。我々が昨年出した提言においても、連携の重要性に言及しているところである。
委員	連携することによって、子育てしている親が、子どもの発達段階や親の働き方に応じて、どのようなサービスが受けられるのかを、分かりやすく示せるのではないか。
会長	そういった御意見のように、今後連携が図られていくのだと思う。他に御意見はありますか。
委員	一つは、広報について、県の広報誌や知事が出演するスポットコマーシャルなどの広報媒体を使って、県がやろうすることを強く訴えると県民に響くので

	はないか。経費がかからない方向で検討していただきたい。 　子ども未来課に質問したい。別冊資料６ページの「合計特殊出生率」の目標値１．６３％とあるが、何年度の目標値か教えて欲しい。
子ども未来課	これは「新おかやまいきいきプラン」の目標値で、平成３２年度のものである。
委員	岡山市子どもセンターにお尋ねしたい。平日のスタッフの方はどんな方か。
ＮＰＯ法人岡山市子どもセンター	基本的に、スタッフもボランティアで、我がＮＰＯの理事や元役員、様々な活動で関わりのある方などである。
委員	中学生や高校生がスタッフに関わっているとのことだが、平日はどのように参加しているか。授業が終わってから２，３時間程度の参加というイメージだろうか。
ＮＰＯ法人岡山市子どもセンター	いろいろな形があるが、キッズフェスティバルでは、最初に一日かけて養成講座を行い、その後は短期間で準備をして本番を迎え、皆で作り上げるといった形だ。フリー塾などは、部活の状況や試験日で早く下校できる日など学校の実情に応じて連絡調整を手間暇かけて行い、地域のやり方などにも応じて中学生・高校生のボランティアに参加してもらっている。
委員	いい取組なので見習いたい。
委員	まず、保健福祉部の説明に関して、 １　別冊資料４ページの「社会的養護からの自立に向けたアフターケア事業」について、主に県北に事業委託するとのことだが、具体的にはどんな地域で何カ所を想定しているか。また、窓口はどこになるのか教えて欲しい。 　次に、津山市子育て世代包括支援センターについて ２　当センターの１年間の運営費に係る予算をわかる範囲で教えて欲しい。また、発達障害の疑いのあるお子さんも支援していくとのことだが、発達障害の疑いの判定は誰が何処でしているのか教えて欲しい。 　次に、岡山市こどもセンターについて ３　運営費はどのようにしているか、県や市から補助金をもらっているかなど教えて欲しい。また、名称に「岡山市」とあるが、岡山市だけを対象として

いるのか教えて欲しい。

次に、真庭市の家庭教育支援チームについて

４　真庭市は面積も広いし、学校数もかなりある。チームの構成員９人では、全ての学校園を巡回するのはかなり大変だと思う。今後どのようにされるのか教えて欲しい。

子ども未来課

（１の回答）

「社会的養護からの自立に向けたアフターケア事業」の御質問について、こうした活動のノウハウを有したＮＰＯ等を公募し委託する予定である。県北にも津山を中心にこうしたＮＰＯが存在する。予算議決後まもなく公募する予定である。経費は、人件費や運営費といった類いだ。窓口は県庁の担当課で、直接県とＮＰＯ等と委託契約する形となる。

津山市こども保健部健康増進課

（２の回答）

津山市子育て世代包括支援センターの予算については、持ち合わせていないので、後日調べて答えを事務局にお預けしたい。経費としては主に人件費であり、嘱託の保健師や助産師に係るものが中心だ。２０名の保健師は、主に津山市の職員で予算は別であるが、市の保健師が各担当地区を持ち、嘱託のコーディネーターが重層的に関わっている形である。

また、発達障害の疑いのあるお子さんをどのように発見しているかについては、幼児期のすべての母子が対象となっている１歳半児健診や３歳児健診の場で、言葉のやりとり、理解や行動を観察したり、そこでの保護者の困り感など小児科の医師や保健師が気になれば、臨床心理士の面接につなぐ。その後、経過観察児教室で６か月程度経過を観れば、そのお子さんの特性が分かってくるので、療養が必要なのか、経過観察でいいのか、保護者の意向を聞きながら、療育機関につなげたり、保育園で経過観察したりしている。明確な基準というものはないが、言葉が遅れている、行動が乱暴、指示が聞けない、視線が合わないなどの様子が見られ保護者が気になっているようであれば、経過観察児教室につないでいる。また、保育園や幼稚園の先生から、保育園・幼稚園担当の保健師に情報提供を受け、経過観察児教室につないでいるケースもある。

ＮＰＯ法人岡山市子どもセンター

（３の回答）

岡山市だけを対象としているのではない。団体名の中の「岡山市」の“市”を取ったらよいのではないかという外部の御意見を受けているところである。運営費については、事業収益等を充てている。補助金については、行政からはもらっていないが、岡山市の委託事業を受けたり、かつては県民局の委託事業

もあったことはある。持続的に活動していくためには、”ヒト・モノ・カネ”が必要であるが、”モノ”については、多方面からいただいたりしているが、”ヒト”と”カネ”については大変厳しいところである。

真庭市教育委員会生涯学習課

（４の回答）

平成２８年度の親育ち応援プログラムの実施については、小学校の入学説明会を中心に実施した。２月に集中するので、チームを２グループに分けたり、日程調整しながら一日２箇所を巡回して実施した。２９年度に向けては、親育ち応援プログラムの実施増加をめざし、人材確保への努力と、県が実施する養成講座への参加要請を働きかけてまいりたい。また、２９年度の予算については、支援チームメンバーの研修の経費を計上しているところである。、チーム員の資質向上に向けて、真庭市内の保護者とともに家庭教育への学びを深め充実と、広がりを推進していきたい

。

委員

説明いただいた４名の皆様ありがとうございました。この審議会は、家庭教育の充実について７月に提言をまとめることを目指しているが、様々な意見を提言に集約していくに当たって質問させていただきたい。

まず、４名の方に同じ質問で、家庭教育の充実に向けて、こんな予算があればもっとこんなことができるのではないか等お考えがあれば教えて欲しい。

次に、津山市と真庭市の方へ。お金以外で、市ではできないけど、県の支援があればもっと良くなるといったことがあれば教えて欲しい。また、岡山市子どもセンターの方へ。ＮＰＯだから自由に活動できる利点があるが、県の支援があればもっといいことができるといった考えあれば教えて欲しい。

次に、子ども未来課の方へ。立場上答えにくいと思うが、保健福祉部はこれだけやっているのに、ここの部分について教育委員会にもっとやって欲しいというような意見があれば、個人的に思うところでいいので教えて欲しい。

子ども未来課

地域子育て拠点が県内に１７４程度ある。在宅で子育てしている親が、出向いて子育ての悩みなどを相談員に相談したり、同じ子育てしている親同士で情報交換などできる拠点である。教育とまでは言えないが、子育ての知恵などを学べる場が既にあると思う。

他に、家庭における生活力を養う施策は、保健福祉部ではあまりないと思うが、保育士が保護者から子育ての相談をされることがあり、うまく対応できる保育士もいればできない保育士もいると聞く。そういった対応ができるようにする研修の充実もこれから必要なのかもしれない。

教育委員会との連携については、放課後児童クラブと放課後子ども教室があり、国はそれらの一体型を推進している。放課後児童クラブは、学童保育であり、保健福祉部としては保育の側面として支援しているが、教育委員会が担当

	している放課後子ども教室ともっと連携していけるのではないかと考えている。
津山市こども保健部健康増進課	今の母親は子育てに不安を抱いている方が多い。我々は、子育て支援センターや児童館に赴き、子育ての話をしたり、個別に話をさせてもらっているが、子育ての話をするにあたって、ケースに応じた講師やアドバイザー等を紹介するなどのスーパーバイズを県が市町村にしてくれたらありがたいと感じている。 現在は、一時保育、保育園の園開放、児童館、子育て支援センターがあり、いろいろかけもちをして保護者は忙しくされているが、このように、子育てサービスは充実しているが、一方で子育てをする力は低下しているのかなと感じている。そこで、我々が保護者にいろいろお話したいのだが、子どもが遊ぶ所に保護者は集まるけど、話を聞く所にはなかなか集まらないので、保護者がよく利用する施設のスタッフが個別や集団に対して話ができるようにし、併せて先ほどのスーパーバイズによる講師等が来てもらえるようなしくみと予算があればいいと感じている。
ＮＰＯ法人岡山市子どもセンター	お母さん方は、こうしなければならない、安全・安心の中で育てたい、地域も世の中もそうなっている時に、情報だけはネット等で入ってくるけれども、なんとなく不安だし、そのことにそうならねばならない感があって、私たちが遊びをやっていた時に、お父さんやお母さん、またおじいさんやおばあさんと呼ばれる方々も、実は三間がないといった風に、そういった世代であって、高度成長期時代に、異年齢の方とは遊ばず、自分の学校の校庭で、同年齢や同クラスの子と遊ぶといった、子ども時代を育ってきたおじいさんやおばあさんであって、家庭教育支援で何をどうしたらよいのか、何が一番よいのか、難しいと思っている。だからこそ、私のところでやっている子育て支援では、お父さんお母さんは、人の話をよく聞くし、どうしたらよいのかよく質問される。私たちは、よくやっているねとか伝える。子どもたちは、自分の五感をしっかり使って育っていこうとする、親たちはそのこどもをそっと見守られるようになってもらう、そしてそうやって自由に育った小学生は、中学生や高校生を観てあこがれ、それを目指して育っていき、中学生と高校生の子は自己肯定感を持ち、下の子どもたちのあこがれになるように行動するといったように、人が育っていくためには、そういったつながりとか、人っていいな、楽しいなと感じることが大切でないか。また、ゆとりも大切で、ライフワークバランスが取れて、子どもと一緒に過ごせる時間が増えるといい思う。また、社会のしくみもゆとりを生み出すようになればいいのかなと思っている。そういった気運が醸成される施策が岡山県に必要でないかと考える。 まちづくりとか様々な取組みで素晴らしいものがあるし、ＮＰＯの活動で子

育て系においても、県の他の課と連携すればもっとうまくできるのにといったこともある。県や市の課の間でも連携すればよくなることもあるのに、情報が共有できていないためにうまくいかないことが多々あるような気がする。この連携が図られるようになれば、子育て支援においても充実していくのではないかと思う。連携の気運は以前と比べて高くなっていると思う。

真庭市教育委員会生涯学習課

家庭教育支援の充実には、人材の確保が重要と考える。この事業施策は、人と人が向き合いながら、互いにつながり合い学び合う取り組みであり、人材の確保とその質の向上に努めながら、よりよい事業として、広げたり、つなげたりしていくことで活用しやすいプログラムの作成への努力を続けたいと思う。そして将来的には企業等に出向き、働く保護者に向けて、家庭教育について一緒に学びましょうと呼びかけながら、繋がり、お互い支え合えれる関係をつくっていきたい。また、老人会等高齢者の方ともつながり、若い世代に伝えて欲しいことを尋ねながらプログラムに反映させたい。県のプログラムにあるように中高生からお年寄りまで幅広い世代に活用できるようにしながら、待つ支援へ向けて、事業が推進できるように願っている。

会長

残り時間も少なくなってきたが、本日は、４つの組織・団体からの説明を受けて、それに対する質問が中心であったが、これまでも、委員の皆様方には、子どもへの支援、保護者との関わり、子どもと保護者をとりまく地域社会の関わり等、家庭教育に関する様々な意見をいただいた。今後に向けてさらに御意見があればいただきたい。

委員

４人の皆様ありがとうございました。皆さんがそれぞれの立場で職務を全うされていることを強く感じた。説明の中で多かったのは、「つながり」や「連携」で、これが大きな課題なのだと感じた。これは、県レベルだけでなくもっと上のレベルでも連携が必要なのかもしれない。

家庭教育支援については、支援する側とされる側とそれぞれの立場がある。家庭教育について考える時、働き方など含めて社会構造を捉えて考えていくべきであり、家庭の中のこと、保育分野のことなど、小さな枠だけでは解決できない問題が含まれていると思う。生涯学習というのは、県の中でも一番幅広い層であり、県の審議する場として、親世代から子ども世代まで全部含めた形で幅広い立場で考えていく上で、とてもいい場なので、積極的に審議して、提言を出していきたいと考える。

委員

今日の話題の中で薄いと感じるのは、父親の存在である。

母子保健については、母親は子どもに一番近く出産するため、母子の健康として重視されるのは当然であるが、それが重視されるほど父親の存在が薄くな

るのだと思う。努力されていると思うが、父親をいかに取り込むかが課題なのだと思う。

最近は、仕事を休んで保育園や学校の行事に参加したい父親が増えてきたと感じているが、なかなか休暇が取れず参加できないという実態もある。

生涯学習審議会の家庭教育の充実に関する提言として、何を出していくのか考える時、子どもの育ちについては、子育て支援センターでやっているし、親の育ちとしては、親育ち応援プログラムの実施がとてもよいと思うが、父親に向けて、真庭市の説明者の発言にあったように、企業に出向いて親プロを実施することなどが考えられる。

委員　企業の立場として、働き方改革というのは大きなテーマだと考えている。父親もそうだが、母親が子どもが小さいときに、いかに長く一緒にいてあげられるか、これは育児休暇をきちんと取得できるようにすることが必要である。また、保育園の待機児童の問題はよく聞くが、気になるのが、小学校に入学してからの保育だ。私は学童保育のことは詳しくないのだが、保育園では、面倒見てもらっていたが、小学校に入った途端、授業が早く終わりその後どう子どもの面倒をみるのかといったところがある。小学校低学年まで育児休暇が取得できるようになったところもあるが、保育の接続についてもよく考えておく必要がある。

会長　ありがとうございました。時間がきましたのでこのあたりで終結したい。次回は、これまでの議論を整理した上で、提言に向けてのたたき台ができるよう、皆様の幅広い御意見をいただきたい。これで協議事項「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」について終結したい。

○「２議事（２）協議事項「その他」

会長　特に無いようなので、これで協議を終結し進行を事務局に返します。

閉会